

「持続可能な社会と企業活動～SDGs の実践に向けて」 をテーマに発表していただきました

～2019 年度 茨城県地球温暖化防止活動推進員第 2 回全体研修会・
第 3 回エコ・カレッジ・環境事例発表会～

9 月 27 日にホテルレイクビュー水戸で、推進員第 2 回全体研修会・第 3 回エコ・カレッジ・環境事例発表会を同時開催しました。今回のプログラムは、午前の P A R T 1 で、SDG s 目標達成に向かうビジネスと題し、取組事例を発表いただき、午後の P A R T 2 では講演や SDG s 達成のための取組事例発表とパネルディスカッションを行いました。地球温暖化防止活動推進員やエコ・カレッジ受講者のほか、当協会会員事業所、行政機関などから 140 名を超える参加者で、会場は一杯となり、興味深く熱心に聞き入ったり、多くの質疑がみられました。

以下にその概要をお知らせします。

PART 1 SDG s 目標達成に向かうビジネス

「新電力切替による経費削減」

- ・新電力コム株式会社 菌田博輝氏

新電力とは何かの説明から、新電力のシェアの推移、メリット・デメリットの説明がありました。また、新電力切替効果の事例や削減額の使い道などについての発表もありました。



「SDG s に向かう成長産業の紹介」

5 つの事業所が、会場内の 5 カ所でそれぞれの取組状況を発表しました。(敬称略)

- ・株式会社 エコツーター技術研究所



遮断塗装によるビルや家屋の省エネ効果

- ・株式会社 TOGA



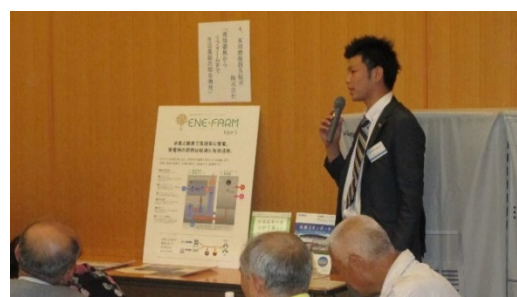
有害物質と臭いを除去するダクトレス空気清浄器

- ・株式会社 ダイトー



走行式スコープによる配管の省エネ効果

- ・東部燃焼器具販売株式会社



燃焼器具からリフォームまで生活基盤の総合商社

・有限会社 Arknet



CO₂を低減したプリザーブドフラワー技術

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



PART 2 わが国がかかえる諸問題とSDGsの取組

●講演

- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所 上級主任研究員 小寺洋一氏

「プラスチックの諸問題の解決に向けて」と題し、まず、プラスチック生産量が増加しており、積算生産量は世界で70億トンにも及び、その多くが環境投棄や埋め立てられており、有害化学物質の暴露や天然資源の消費、廃棄物の増加や廃棄物管理が問題となっていると説明がありました。そして、問題への対処として、現在の法制度と基本政策、どの利害関係者が何をすべきか、プラスチック廃棄物の有効利用例の紹介があり、最後に、企業行動への期待を説明していただきました。



●事例発表「SDGs達成のための取組事例について」

- ・G h o l d i n g s株式会社 会長 平井正昭氏

「空気から毎日20Lの水をつくる革新技術」と題し、『自然と調和した文化を、世界に創造する』という理念を語られ、炭素・水・電気・油・ゴミ処理についての循環型エネルギー事業の発表がありました。具体的に、無限の可能性を秘めた次世代炭素「CARBON NANO HORN」、空気中から毎日の飲み水を生み出す「AQUA ROOTS」、プラスチックゴミからガソリンを作る「廃プラ油化装置」、すべてのゴミをイオン化処理でクリアーにする「ゴミ処理装置」、走りながら電気を生み出しリチャージ出来る「リチャージングカー」などの革新的な技術の発表がありました。



- ・サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家悠介氏

「SDGsとサラヤ」と題し、SDGsゴール3（すべての人に健康と福祉を）を目指して、「子どもたちの命を守る手洗い」を世界に広めたいということから、対象衛生商品の売上の1%で、アフリカ・ウガンダでのユニセフの手洗い普及活動を支援するために、2010年に「SARAYA 100



万人手洗いプロジェクト」を始動。2015年までのプロジェクト成果として、簡易手洗い設置が普及し、手洗いの割合が33.2%（2007年14%）に向上した。また、「手洗い・世界ナンバーワンを目指して！」の取組を紹介。さらに、ゴール15（陸の豊かさを守ろう）については、ボルネオやエジプト、チュニジアで展開している緑化プロジェクトの発表がありました。

・一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 事務局長 星昶氏

「募金からはじまる企業のSDGs」と題し、1993年設立のセブン-イレブン記念財団が取り組んでいる自然環境保護・保全事業を中心に説明がありました。今年度の方針は、セブンの森（13都道府県18カ所）、環境市民活動助成、環境ボランティア活動への誘い、地域密着型の九重・高尾自然学校などです。また、宮城セブンの森、大阪湾セブンの海の森、そして、水戸市の茨城セブンの森、山梨セブンの森、滋賀セブンの森、奈良セブンの森の説明に続いて、九重ふるさと自然学校及び高尾の森自然学校の取組の発表がありました。



講演及び事例発表後、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の吉積潔氏をコーディネーターに、講演者と事例発表者をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。参加者からの質問を交え、SDGsと企業の経営戦略について話し合っていました。

